

Project	地域協働専攻 地域政策グループ
20	後期近代の時代精神と地域内の公共的人員交通における路面電車の役割 —その延伸の可能性と不可能性に関する実証的考察
メンバー	[学 生] 村瀬 駿斗 / 中嶋 優翔 / 扇谷 奏汰 / 吉田 健人 / 菅沼 秀 [担当教員] 田村 伊知朗

【背景】

過去の地域プロジェクトにおいて、路面電車ルネサンスを考察するために、岡山市、富山市、宇都宮市等の路面電車ルネサンスの実態を考察した。函館の路面電車を再生するための指針とするためであった。

【目的】

函館の路面電車の再生のために、可能な政策を考察するために、路面電車ルネサンスの実態を考察した。実際に利用しながら考察及び延伸案を提案する。また、その不可能性の原因を考察する。

【概要】

岡山市電の創設可能性を考察する。また、富山市電の成果を学習する。後者に関しては、すでに多くの文献の蓄積がある。最後に、函館市電の延伸可能性に関して具体的可能性を討究する。その不可能性の根拠を再検討する。

【プロセスと成果】

メンバーの多くは、市外出身であり、路面電車を身近に感じることはなかったため、函館市の路面電車に乗ることからスタートした。乗車だけでなく沿線を散策し、路面電車の良さや課題などを議論することで、研究の足がかりになった。

まちづくりや地域の諸課題を解決する際に路面電車、交通はどのように貢献していくのか、この1年を通して学習できた。前期において岡山市電の挫折過程と、後期において富山市電の成功事例を学習した。様々な交通政策の実体と理論を学習することによって、函館市電の意義と限界を学習した。特に、後期において函館の路面電車の延伸の具体的可能性を探究した。



1. 五稜郭公園前停留所から亀田支所への延伸



2. 五稜郭公園前停留所からフェリーターミナルへの延伸



3. 湯の川温泉停留所から函館空港への延伸

【総括と反省・今後の課題】

中間発表で「岡山市の路面電車ルネサンス」について発表した際、実際にポスターセッションで地域の方々とお話した時に、データや情報の調べ不足が私たちの共通の課題に挙がり、万全の準備とはいかなかったことを全体で共有した。函館市電の延伸は不可能である。この根拠は、明治以来の函館市の行政の問題とも関連するので、今後の課題としたい。

【地域からの評価】

函館市の路面電車の延伸は、不可能である。しかし、公共交通全体の位置づけのなかで、路面電車をより活用する方法を再検討する。財政的観点、とりわけその財源を考慮すべきである。とりわけ、バスとのよりスムーズな結合方式を再検討する。

【年間スケジュール】

前期	4月17日	スケジュール確認
	4月	岡山市路面電車ルネサンスの総括的討究
	5月	その観光資源
	6月	その財政
	7月	併行する道路との関連 中間発表準備
後期	10月	富山市電の文献考察
	11月	その財政
	12月	函館の路面電車の延伸可能性
		函館の路面電車の延伸不可能性
1月	成果発表会準備	

